

## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。  
今号では、中国・四国地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

### 中国・四国地域ブロック から

中国・四国地域ブロック担当理事  
杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）

中国・四国地域ブロックでは、毎年6～7月に地域ブロック大会を開催してきました。今年の7月14日（土）の四国学院大学での大会で50回をむかえますので、第50回記念大会として、開催することとなりました。この大会では、「障害の有無を越えて～「共生社会」のリアリティを問う～」をテーマにして、東京大学先端科学技術研究センターの熊谷晋一郎先生による基調講演「スティグマへの抵抗：障害と依存症を例に」をはじめ、自由研究発表やシンポジウムなど、例年にもまして充実した内容となっております。

50回をふまえて、50回の大会の歩みを整理しました。数年分だけ資料不足で不明な点が残りましたが、ほぼ50年の歩みが把握できました。そこでわかったことですが、1969年に第1回を、やはり四国学院大学で開催して以来、1年も欠かすことなく確実に開催してきました。開催場所は、特定の地域に固定することなく、鳥取県以外の中国・四国全域で開催しておりますので、研究成果をブロック全域に広げていく役割を果たしました。そして、その時期において直面していた社会福祉の課題を大会テーマとして設定して、研究を開拓してきました。学会の先輩の先生たちが、研究条件が決して良好ではなかった中国・四国に拠点を置きつつ、苦勞してブロックの基礎を築いてきたことがわかります。半世紀を超える新たな歩みが始まりますが、ブロックがさらなる発展をしていくために、先人が残してくれた成果を、しっかり継承したいと思います。

中山間地域を中心とした福祉課題について、ブロックとして研究をすすめてきました。このたび、研究成果がまとまりましたので、『中国・四国発 地域共生社会づくりの課題と展望』と題して、冊子として発刊することとなりました。高齢化や人口減少からくる生活実態を示して厳しい現実を明らかにするとともに、新たな実践の方向も示すことができました。まずは、冊子の研究成果を会員各位に共有していただきたいと考えています。

この研究を契機として、地域に根ざした研究が深まっていくことを願っております。

ブロックとしても、これで終わるわけではなくて、このたびの取り組みを契機に、引き続き特定の研究課題を設定して、研究を推し進めていくつもりです。

中国・四国では、岡山孤児院や朝日訴訟のような先駆的实践・活動の一方で、森永ヒ素ミルク事件やハンセン病問題のような誤りもありました。現実をしっかり向き合いつつ、新たな福祉を創造していく研究を、これからも中国・四国から発信していきます。